

(様式2)

平成19年度神戸中学校研修計画

研究主題	一人ひとりが、思いを出し合い、互いに支え合う人間関係を育てる。
教科領域等	・全教科等（全教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等） ・教科（ ） ・道徳 ・総合的な学習の時間（学校での呼称：「人権総合学習」） ・特別活動（学級活動／児童・生徒会活動／学校行事等） ・その他

1 主題設定の理由

- ・自分の生活に充実感を見いだせず、自ら考え判断し粘りづよく進路を切り拓いていこうとする力が十分に育まれていない実態がある。
- ・様々な人権問題や差別を、自分にかかわる身近な問題としてとらえきれていない実態がある。
- ・日常生活において、差別発言や人を傷つけるような言動が見え隠れしている。
- ・差別はいけないことは理解できても、差別の不合理性や差別への怒りを実感できているかとなると、まだまだ不十分な実態がある。
- ・教師自身にも差別解消に向けた展望をもつことや個々の人権問題に対する認識を深めるという課題がある。

上記のことから、子ども相互や教師と子ども、教師相互において、豊かな関係を築いていくために、互いに思いを出し合い、共感し合い、知り合っていくことができるような取り組みを進めていく必要があると考える。また、ともに生活したり、ともに活動や行動したり、ともに学び合うことを通して、互いに支え合っていくことが大切であると考える。本年が変革、成長していくことができる取り組みを進めていくことが大切であると考える。本年度の主題を設定した。

2 子どもにつけたい力

研修主題を達成するために、「①生活を創る力、②自ら考える力、③豊かに表現する力、④豊かなつながりをきずく力」の「子どもにつけていきたい4つの力」を設定し、その根幹となる生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向けた取り組みも実践していく。

3 本年度の指導の重点

本校は以前から「部落問題を通して様々な差別の問題を考える」とを研修の柱とし、市内や区内の施設や地域で、差別なくす生活や学習の場を創り、子どもたちが安心して生活できる環境を整えることに取り組んでいる。また、その実態が、被差別やマイノリティの立場にいたり、子どもたちが不安や孤立感を感じたり、差別や偏見を体験していることなど、様々な課題が浮き上がっている。また、本校では、学力の二極化が顕著であることから、学力保障に向け教科研修、補充学習の充実にも積極的に取り組んでいきたい。

4 具体的な方策

全教育活動の中で、人権教育を「人権尊重の感性を磨く」「人権尊重の行動力を育む」「人権尊重の認識を高める」の3つの領域に設定し、「感性」分野では、総合的な学習の時間を中心とした出会い・体験活動を行う。「行動力」分野では、生徒会や学級活動を中心に自主的な人権活動を行う。また、「認識」分野では、各教科の学習や補充学習を中心に基礎学力の定着を図り、さまざまな人権課題に自ら取り組むための認識を深める。全校体制としては、「人権教育推進委員会」において、各推進委員会での取り組みを協議し、子どもの生活を見つめながら「4つの力」をつけていくように検討していく。